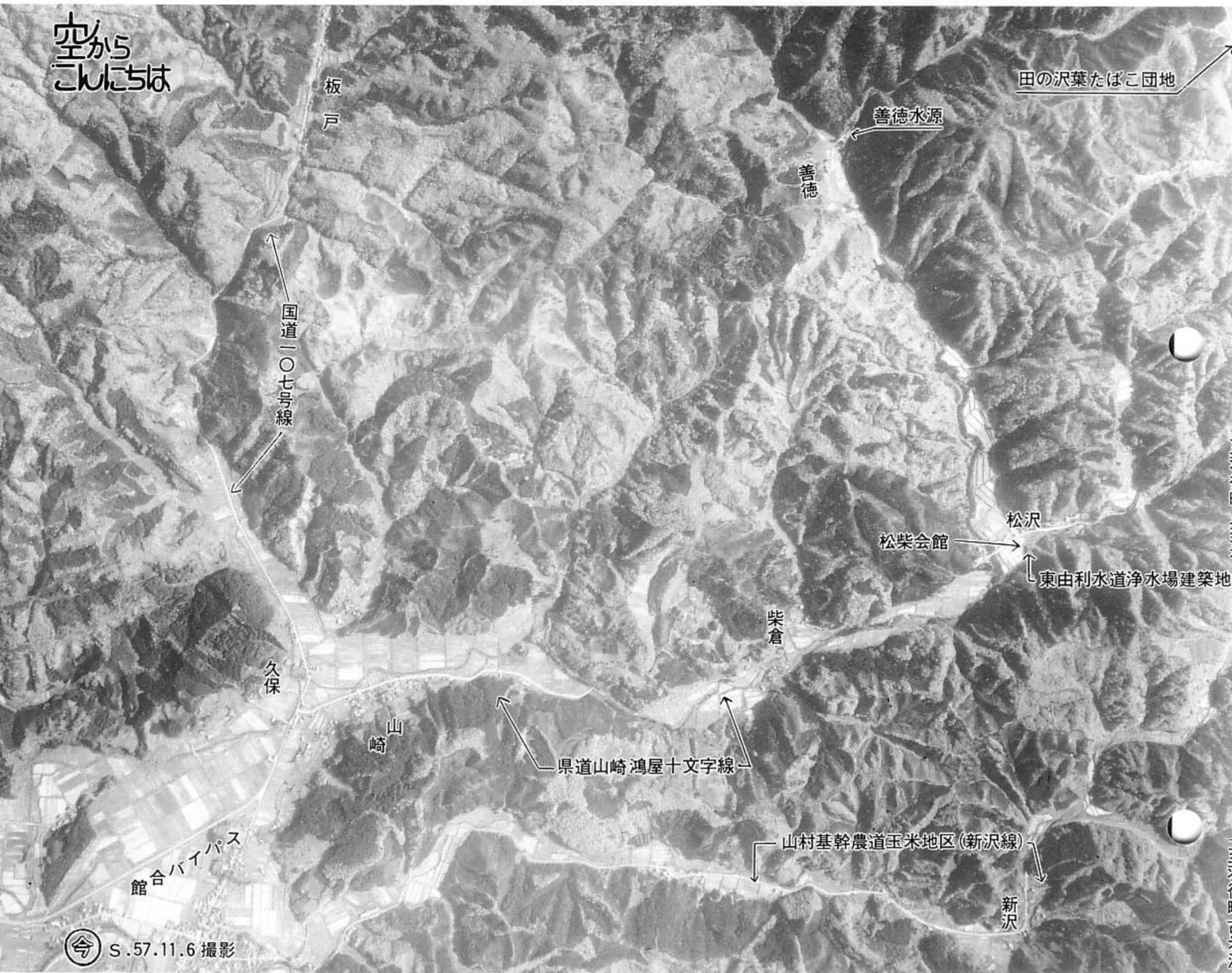


東由利町報

12月

昭和58年

No. 345 昭和58年12月1日発行 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画財政課 毎月1日発行



水源新浄水施設 期待集めて工事中 (松柴)

羽後町上倒米地域と隣接し、県道山崎鴻屋十文字線沿いに人家が連担する松柴地区。地区住民の日常生活と産業経済をささえる同線は、今年から特殊改良一種事業として、全幅七割の改良工事が進められています。

米の生産調整策が強化されていくなか、同地区農家は、昭和五十三年に「農事組合法人松柴たばこ生産組合」を設立。第二次農業構造改善事業により畑地造成された田の沢地区で、現在六戸が葉たばこ栽培に取り組み、複合自立経営の確立を目指しています。

五十四年には、同事業によって研修集会施設「松柴会館」が建築され、地区のコミュニティづくり、生活向上に活用されています。

県道と並行して流れる松沢川の支流「善徳川」は、現在拡張工事が進められている東由利水道の新しい「水源」。松沢には、給水量不足と未給水地区解消の期待を集めて「浄水施設」が建築中であり、日も早い給水開始が待たれています。

〔空からこんにちは〕は、今回で終わらせていただきます。

「町民の声を町政に」
町長面会日〓今月は20日

三氏が晴れの町功労者表彰

小松前助役に自治功労章贈呈

昭和五十八年町功労者表彰式並びに町自治功労章贈呈式は十一月三日、前表彰者、町自治功労者、議会議員、各団体長ら約七十人が出席して有鄰館で行われました。

式は午前十一時三十分開始、の受賞となった元下郷村助、役の阿部重三郎氏(秋田市、本町蔵出身)、元東由利中学校長の佐藤敏英氏(西目町、本町八日町出身)、酪農家の大庭喜右衛門氏(舟木)に、それぞれ功績をたたえる表彰状と記念品が町長から贈られました。



続いて、昭和四十七年五月以来、本年八月に退職するまで十一年有余にわたって首長を補佐し、町勢発展に尽くしてこ受賞者一人一人に功績をたたえる表彰状と記念品が島山町長から贈られた。

られた前助役の小松民三郎氏(下小路)に、自治功労章が贈られた。



自治功労章が贈られた小松前助役

贈られました。

このあと、町長が、表彰者の業績を紹介するとともに「長い間に培われた豊富な経験と識見をもって、今後も町勢発展のためにご尽力くださるようお願いする」と式辞。

小野町議会議員、佐藤町教育委員長からお祝いのご言葉が寄せられました。

これに対し、受表彰者を代表して阿部氏が「おめでとう、意義深い文化の日に、功労者として表彰状、さらに御懇篤なるお言葉をいただき、光栄

と感激で胸がいっぱいである。

長い間、大過なく務めさせていただくことが出来たのは、本日御列席の皆様方は申すに及ばず、今日すでに亡くなられた大先輩の方々のご指導があったからであり、ここに改めて深くお礼申し上げ、今後いっそうの町勢発展を祈念する」とあいさつ、式はとどきおりなく終了しました。

このあと、出席者らは祝賀会に移り、菊かおる文化の日、ともに受賞を喜び、祝いを合いました。

臨時議会 大袖水道、基本料金決まる 河川災害復旧費など補正

第十一回町議会臨時議会は十一月十八日に招集され、町簡易水道事業給水条例の一部改正など次の五議案を審議、いずれも原案どおり可決して閉会しました。

【専決処分の承認を求めることについて】

五十八年度町一般会計補正予算(第六号)

防火水槽にかかる国庫補助金の追加交付決定により、工事請負費二百二十五万八千円を歳入・歳出予算にそれぞれ追加し、総額二十三億三千万二千円とした。

【町簡易水道事業給水条例の一部を改正】

大袖簡易水道の基本水量、

基本料金、超過料金について次のとおり定めた。

○基本料金

○家庭用・団体用：一〇㎡まで二、五〇〇円

○営業用：一〇㎡まで三、五〇〇円

○臨時用：一㎡ごと四〇〇円

○超過料金(いずれも一㎡ごとに)

○家庭用・団体用：二〇〇円

○営業用：二八〇円

【町行政財産使用料徴収条例について】

別に定めがあるものを除く土地・建物の使用料金等について定めたもの。

【五十八年度町一般会計補正予算(第七号)】

歳入・歳出予算の総額に、それぞれ二千三百七十四万八千円を追加し、歳入・歳出それぞれ二十三億五千三百七十五万五千円とした。

【五十八年度町簡易水道事業特別会計補正予算(第三号)】

歳入・歳出予算の総額から五千六百九十九万一千円を減額し、歳入・歳出それぞれ三億九千二百三十三万五千円とした。

【専決処分の報告について】

○団体宮農道整備事業大台地区請負契約の変更契約
変更契約額：増七四二、〇〇〇円

○〇〇円
契約の相手方：株式会社興北協和・代表小島正雄

ご協力をお願いします!

みんなそろって明るいお正月を

12月は「歳末たすけあい運動」の期間です。昨年は、45万9,370円が町社会福祉協議会に寄せられ、低所得世帯や長期入院・入所者に全額配布して喜ばれました。恵まれないかたが、みんなそろって明るいお正月を迎えられますよう、今年も是非、あなたの「善意の灯」をお願いいたします。

知事の市町村訪問

「県民のなまの声を県政に」——各市町村を巡回訪問している佐々木知事は十一月十九日、地方課長、由利地方部長ほか由利地方総合庁舎の各所長とともに本町を訪れ、出羽丘陵草地造成現場と県道二路線を視察。有隣館で町当局、議会議員、町内各団体役員ら百人余りと懇談、町が抱えている諸問題について意見交換を行いました。

60年度特養ホーム建築など要望

午前九時過ぎ本町入りした知事一行は、時折りみぞれ混じりの冷たい雨が降る中、畠山町長の案内で土場沢林道、須郷農道を通って大吹川の出羽丘陵草地造成現場「更田団地」を視察。関係者から概要を聞くとともに、集まっていた沿線地域住民から、同地区を通る砂利道の県道仁賀保矢島館合線の改良促進について、要望を受けました。

このあと一行は、先ごろ完成した農免農道軽井沢線を通り、一〇七号線根城地内、出羽丘陵草地造成現場「宿・荒山団地」を高瀬川越しに視察。さらに、県道横手東由利線を町境まで行き、同線を生命線としている祝沢地域住民から、同線の改良促進について要望を受けました。



草地造成現場「更田団地」を視察する佐々木知事(写真中央)

出羽丘陵草地造成現場を視察

冒頭、訪問のあいさつに立った佐々木知事は、昭和六十五年度をめどに策定した県総合発展計画に沿った県政の推進状況、国内・外の経済情勢と県財政の見通し、第三期水田利用再編対策の内容、面積配分見直しなどについて説明。この中で知事は「国・地方を問わず厳しい財政事情にあり、さまざまな制約を受けるのも事実だが、県勢発展のため、計画された事業は完全にこなせるよう、最善の努力をして

いきたい」と述べ、県民のいっそうの理解と協力を要請しました。この日、町側参加者から出された要望事項、県側回答の要旨は次のとおりです。

【要望】 広域農業開発事業出羽丘陵東部地区の工期は、基本計画では五年となっていたが、農水省の事業実施方針では現在、七年となっている。工期が延長されることにより、建設費が増大し、農家経済の圧迫要因ともなる。当初計画された五年間で事業完了できるように配慮してほしい。

【回答】 工期については、予算獲得等、短縮できるように努力していきたい。ご承知のとおり本事業は、財政投融資資金運用事業であり、厳しい財政事情の中、さらに工期が延長されることのないよう、むしろ予定どおり七カ年で事業完了できるよう努力していきたい。

【要望】 国道一〇七号線の改良整備について、蔵工区に引き続き奥ヶ沢

【回答】 陸運事務所にお問い合わせの結果、(共同利用については)具体的な状況によって判断していかねばならないとのことであった。一般的法律上は難しいことであり、地域の特殊事情ということで具体的な資料を持参のうえ、陸運事務所と協議してほしい。

【回答】 横渡から本荘市山内間は約八キロあり、現在の区間の全体改良計画を策定し、いちおうの方線を定めている。奥ヶ沢地内には雪崩、落石の危険力所があり、この地区の改良が先決と考え、全体計画に基づき、山内工区について59年度から着工したい考えで国に予算要望している。現在の財政事情からして、一度に二カ所ということは難しいと考える。

【回答】 現在、畑中(時雨山)、沢中(石高)地内で工事が進められており、要望の区間については、引き続き継続事業として改良を進めていきたいと考えている。

【質問】 蔵地内の流雪消整備年次見通しは、

【回答】 公共事業で実施したいということで、国に予算要望している。単年度ではできないと思うが、59、60年の二カ年度ではだいじょうぶだろうと思う。

【要望】 路線バスの通っていない過疎地における遠距離児童・生徒及び保育園児の通学・通園対策として、学校と保育園(私立)が共同でスクールバスを利用できるように、特段の配慮を望む。

【回答】 特養ホーム建築を希望する町村は、現在二十ある。しかし、厳しい財政事情から、年二カ所程度しか建築できない状況にあり、老人人口当たり施設の少ない地域(郡)から設置していくという基本方針で、予算配分にあたっては、郡内各市町ともよく協議、調整をとっておいてほしい。また、建築にあたっては、町の中央部、誰れもが気軽に訪れることのできるような場所、子供たちの元気な声が聞こえるような場所を選んでほしい。

【要望】 国道一〇七号線をはじめ、隣接町に通じる道路網の整備充実と併わせ、高齢化社会への対応、福祉行政の充実という意味から、本町でも昭和六十年に特別養護老人ホームを建設したい考えで、由利福祉事務所の指導を受けながら準備を進めている。この実現のため、特段の配慮を望む。

【回答】 特養ホーム建築を希望する町村は、現在二十ある。しかし、厳しい財政事情から、年二カ所程度しか建築できない状況にあり、老人人口当たり施設の少ない地域(郡)から設置していくという基本方針で、予算配分にあたっては、郡内各市町ともよく協議、調整をとっておいてほしい。また、建築にあたっては、町の中央部、誰れもが気軽に訪れることのできるような場所、子供たちの元気な声が聞こえるような場所を選んでほしい。

【要望】 国道一〇七号線の改良整備について、蔵工区に引き続き奥ヶ沢

四千人超す人出てにぎわう

町生活文化祭 出来秋祝う 農協祭



↑ いつも満員盛況の老人作品展



ステージでは、みごとな唄や踊りが次々と披露され、「プロも真っ青」の声も



町連合青年会員らが食堂部門を担当。調理実習室でホットドッグづくりに励む男子会員

十一月五日・六日の二日間
にわたり、町生活文化祭が有
隣館、朋楽荘、公民館で、農
協祭がライスセンター構内で

それぞれ行われ、期間中好天
にも恵まれ、延べ四千人を超
す人出でにぎわいをみせまし
た。

文化祭三会場には、衣服手
芸品や発明工夫品、書画、俳
句、写真、陶芸品、いけば
盆栽、わら工品など、子供か

せいほかを上映、二日目には
生涯学習の成果を披露するス
テージ発表が行われ、公民館
各分館や老人クラブ芸寿会な

どの皆さんが唄や踊りを発表
し、好評を博しました。
一方、農協祭では、農産物
の展示のほか、野菜やヤマメ
の即売、米料理コンテストと
即売、カラオケ大会なども行
われてお祭りムードを盛り上
げ、出来秋を祝い合っていました。



海の冒険家

堀江謙一氏の文化講演会

青少年に夢と希望を

世界のヨットマン・
堀江謙一氏を講師に迎
えての文化講演会が、
十一月十日有隣館で行
われました。

これは、青少年の健
全育成を願い、青少年
堀江氏の未知の海での冒
険ロマンの語りに耳を傾
ける中・高校生

に夢と希望を与え、たくまし
いフロンティア精神のかん養
を目的に、東由利中学校PT
Aと町公民館が、本荘鶴舞ラ
イオンズクラブの後援を得て
開いたものです。会場には、
中・高校生、一般合わせて四
百人近くが詰めかけ、二時間
近い未知の海での冒険ロマン
の語りに耳を傾けました。

堀江氏は、全長五・七七
のヨット「マーメイド号」で
の太平洋横断をはじめ、ヨッ
トによる単独無寄港世界一周、
世界初の地球縦回り一周航海
など数々の記録を達成。昭和
三十八年には、その著書「太
平洋ひとりぼっち」で第十回
菊地寛賞を受賞、翌三十九年
にはイタリアで「海の勇者賞」
を受賞するなど、世界的海の
冒険家として知られています。

この日の演題は「マーメイ
ド号の航海」。四十八年八月
一日に全長八・八の「マー
メイドIII号」で兵庫県・淡路
島を出航、二百七十五日十三
時間十分を要して四十九年五
月四日午前十二時五十五分、
無事大阪湾・忠岡港に帰港し
記録達成した「西回り単独無
寄港世界一周」のもようの中
心に、未知の海での冒険ロマ
ンを披露。失敗したときと成
功したときの周囲の取り扱い
が、いかに違うかということ
を人生の教訓として肝に命じ
ておきたい。世の中は結果論
であるが、失敗を恐れず、常
により高い目標に向かってい
く人間でありたいと思ってい
る」と結び、そのチャレンジ
ャー精神は聴講者に深い感銘
を与え、大きな拍手が送られ
ていました。



「ほんの一杯だけ」が命とり

- 12月1日～10日 年末の交通安全運動
- 12月1日～31日 飲酒運転追放強調県民運動
- ▷……飲んだら乗らない……◁
- ▷……乗るなら飲まない……◁
- ▷……乗るなら飲ませない……◁

呈贈状感謝に四団体

町発明工夫展10周年記念式

一層の飛躍発展を誓う



町発明工夫展の発展に寄与された団体に感謝状を贈り、一層の飛躍発展を誓った10周年記念式

東由利発明工夫展十周年記念式が十一月七日、有鄰館で行われました。

昭和四十九年、町民の発明考案に対する関心を高め、産業の発展と生活の向上に役立つ

この日の記念式では、町生活文化祭と併わせて開催した第十回展入賞者の授賞式に続いて、町発明工夫展の開催を

第三十二回秋田県発明展が、十一月十九日から二十二日まで秋田市の県児童会館で開かれました。

これは、発明考案に対する県民の関心を高め、科学技術の振興と産業の発展に役立たせようと、県と発明協会県支部が毎年実施しているもので、今回は、昨年より約二十点多い三百七点が出品されました。

本町からは、小学生四十六点を出品。審査の結果、佐藤裕宏君(老方小四年)と大日向由佳さん(蔵小六年)が県知事賞に輝いたのをはじめ、九人が入賞。それぞれに工夫を凝らしたアイデアいっぱい

の作品は、訪れた人たちの目を引いていました。入賞者等は、次のとおりです。(敬称略)

裕宏君と由佳さんに知事賞

県発明展で九人が入賞

側面から援助し同展の発展に寄与された四団体に、町長と町発明同好会長から感謝状を贈呈。出席者らは、十周年を一つの節目として、さらに十

五周年、二十周年に向けていっそうの飛躍発展を誓い合いました。感謝状が贈られた団体は次のとおりです。(順不動)

○東由利農業協同組合

○東由利町商工会

○東由利町建設技能組合

○有限会社・マルテール秋田

【秋田県知事賞】・佐藤裕宏(老方小四年) 太陽熱を利用したズックほし

・大日向由佳(蔵小六年) 追跡装置付き太陽ろ

【秋田県新報社賞】・遠藤拓勇(蔵小四年) 満タンを知らせる灯油タンク

【NHK秋田放送局長賞】・大日向将也(蔵小一年) 畜光テープ付反射ポール

【AKT秋田テレビ社長賞】・太田久隆(蔵小六年) 取り出し楽なポスト

【発明協会県支部長賞】・小林史幸(老方小四年) 老人用ステッキ傘

・小野和仁(大琴小六年) 便利な洗剤箱

【同県支部奨励賞】・佐藤猛彦(老方小五年) 水道凍結防止器

・安倍正(八塩小五年) 茶かすのとれる茶づつ

20年連続税金完納

本町が県知事表彰

昭和五十八年度秋田県納税表彰伝達式が十一月十日、由利地方総合庁舎で行われ、優良納税市町村として本町に、佐々木知事から表彰状が贈られました。

これは、本町が、納税貯蓄組合の育成強化と納税成績の向上に努め、特に、昭和五十七年度まで連続二十年度にわたって収納率百割を達成して

いることが高く評価されたものです。この二十年度連続完納は、県内では本町と岩城町の二町だけです。

小松さんに知事感謝状

国民年金制度の向上に貢献

国民年金事業優良団体等表彰式が十月二十七日、県正庁で行われ、席上、本町高戸屋

の小松豊さんに県知事から感謝状が贈られました。小松さんは、長年にわたり

昭和五十八年度秋田県統計大会並びに第三十四回全国統計大会が十月二十七日、秋田市の県民会館で行われ、席上、本町新町の宮塚昭三さんに佐々木知事から表彰状が贈られました。

宮塚さんは、長年にわたり

宮塚さんが知事表彰

正確な統計調査に尽力

年金委員として、保険料の収納及び資格得喪の指導にあたり、また町年金委員協議会会長として組織の育成、委員の

指導にあたるなど、国民年金制度の向上発展に貢献していることが認められたものです。

表彰

自然なお手伝いを

12月9日~15日
身体障害者福祉週間

うらふら'83

町では、起債充当率の引き下げや町財政史上初の交付税対前年比減、公共事業の抑制など、一段と厳しい行財政運営を余儀なくされましたが▽小学校統合の解決▽出羽丘陵開発事業着工▽国道一〇七号線蔵工区完成——等、生産・生活ともに快適な東由利建設に向けて着実にその歩を進めてきました。

そこで今回は、行く年を振り返り、来る年にさらに飛躍発展することを期し、「83町勢8大ニュース」と題して今年発行した町報の中から、主な出来事を拾ってみました。

町報で拾う

「町勢8大ニュース」

「行財政改革の推進」「依然として低迷状態の景気」等——いっそう厳しい世相で迎えた昭和五十八年も残すところ一カ月。皆さんにとって、この一年はどうだったでしょうか。

国道一〇七号線 蔵工区が完成

昭和五十三年から工事が進められてきました国道一〇七号蔵工区が完成し、十月二十六日、関係者百五十人余りが出席して開通式が行われました。

同工区は、西の浜から横渡間総延長二、九〇〇メートル、総幅員十一メートルの二車線で、歩道と車道を



分離した一部バイパスとなり、一八五メートルの蔵トンネルと一二五メートルの愛宕トンネル、七三メートルの横渡橋の新設によって短絡化を図っています。

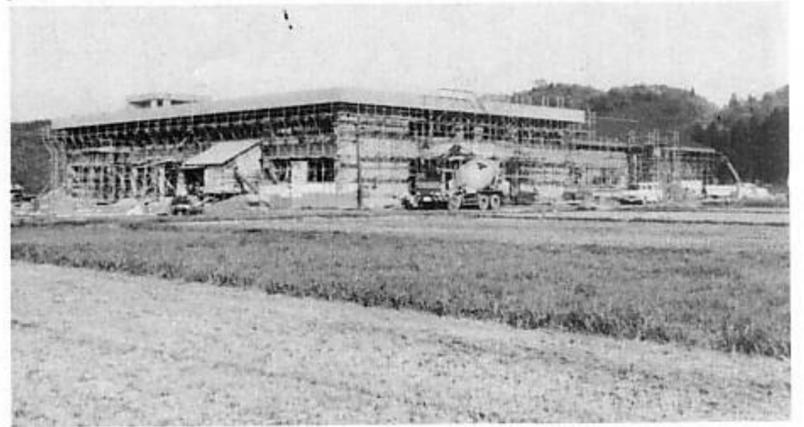
車を唯一の交通手段とする本町にとって、町内を東西に横断する一〇七号線は正に生命の動脈であり、同工区の完成は、本町の産業経済、文化の発展に大きく貢献するものと期待されています。

蔵・老方両小統合校 来年四月一日に開校

蔵小と老方小の統合が、一月七日の第一回臨時議会で議決され、五十九年四月一日から蔵老方小学校として発足することになりました。統合校の位置は「宮の前」。

新校舎建築は、去る六月に着工され、来年四月の開校に向けて、工事は順調に進められています。

また、体育館は、二カ年継続事業として校舎棟と同時に施工。完成は五十九年五月末を予定しています。



宿・袖山地区の縦断道 根小屋 農免農道が完成

県営事業として進められてきました根小屋・軽井沢両地区農免農道整備事業が完了し、十月四日、関係者百人余りが出席して竣工式が行われました。両地区の起点は、国道一〇

七号線をはさんで相対しており、実質的には宿・袖山を南北に縦断する大台から大吹川間約十一・一キロの路線で、本来の農道としてのメリットだけでなく、沿線集落の生活関連道路としても地域発展に大きく貢献していくものと期待されています。



昭和58年の主な歩み

- 1月5～7日 全県ミニバスケットボール大会（八塩小男子チーム出場）
- 6日 町消防団出初め式（於・八塩小体育館）
- 7日 町政座談会（老方分館主催：於・商工会館、蔵分館主催：於・大蔵館）
- 2月14日 嶽石正典さん（山崎出身）青年海外協力隊員としてアフリカへ
- 20日 出稼ぎ者激励懇談会及びふる里集会（於・全農道府県会館）
- 24日 畜産講演会（於・有鄰館、講師・北川重一県畜産試験場経営部長）
- 3月3～4日 町農業後継者研修バス（於・宮城、山形両県、農業青年16人参加）
- 10～15日 第25回県優良家具展（八杉会が「秋田営林局長賞」受賞）
- 11～23日 第3回定例議会（昭和58年度一般会計当初予算額22億2,537万3千円、小野収入役再任・三期目）
- 31日 梅津嘉一郎公民館長退職
- 4月1日 公民館長に小松忠正氏就任
- 2日 県道横手東由利線祝賀地内で地すべり災害発生
- 10日 知事・県議会議員選挙（投票率76・38%）
- 16日 町農業委員選挙告示（無投票当選）
- 28日 自治会長会議（於・朋楽荘）
- 5月5日 第23回町青年大会（優勝・成年会）
- 12日 町農業委員会（新会長に小松哲夫氏互選）
- 26日 日本海中部地震（午後0時30秒発生、震度5の強震）
- ※ 町観光絵はがき作成・全戸配布
- 6月12日 第5回町民登山（於・八塩山、42人参加）
- 14日 昭和57年度町スポーツ栄誉賞授与式（4人）
- 14日 釜坂地区団体体育場整備事業竣工式（於・大蔵館）
- 20～25日 町敬老会（五会場・各地区ごとに）
- 26日 参議院議員選挙（投票率76・30%）
- 29日 町道金山線竣工式
- 7月2日 郡市中学校総体・野球（東由利中初優勝）
- 6日 町畜産共進会（肉牛98頭、乳牛9頭）



**出羽丘陵開発事業
いよいよ本格着工**

地域農業振興一大プロジェクト「出羽丘陵開発事業」の東部地区着工式が、8月25日に雄物川町で行われ、いよいよ本格的な工事が進められることになりました。

本町の参加農家は百五戸。草地造成二三八・四畝、農道整備二九・四のほかに、機械施設整備、家畜導入等を計画。総事業費は、東部地区全体の四二・九%にあたる四十一億九百万円を見込んでいます。工期は、昭和六十四年までの七カ年を予定しています。



**東中野球場
念願の県大会出場**

6月30日から三日間にわたって熱戦が繰り広げられた郡市中学校総合体育大会野球大会で、東由利中が、古豪・本荘北中を13-1の大差で破り初優勝、念願の県大会出場を果たしました。



県大会では八月四日、二回戦第四試合で優勝候補に挙げられた強豪・秋田南中と対戦。大型バスやマイククロバス、自家用車などでかけつけた全校生徒、父兄、一般町民、町外在住町出身者らの熱い声援を受けて善戦。惜しくも初陣を飾ることはできませんでしたが、晴れの舞台での健闘に、スタンドやネット裏から大きな拍手が送られました。



**第四代東由利町長
に畠山氏が就任**

任期満了に伴う町長選挙は、七月二十三日に投開票が行われ、新人の畠山亮二郎氏が現職の小松栄男氏を小差で破って初当選を果たし、第四代東由利町長に就任。四期十六年間にわたって町政を担当してきました小松町長は、八月十九日



に退任、翌二十日、畠山町政がスタートしました。

**大吹川・袖山地区に
簡易水道が完成**

きれいで安全な水がいつでもふんだんに――農村総合整備モデル事業で工事を進めてきた大吹川・袖山地区簡易水道が完成し、七月九日、関係者八十人余りが出席して竣工式を行い、安心して飲み使える水道の完成を祝いました。

同水道は、大吹川の表流水を水源として、既設の農業用水槽から分水する形で取水。分水直後に沈砂池を設け、自然流下方式で大吹川浄水場に導水し、ここから大吹川配水池にポンプ圧送して大吹川・袖山・舟打場全域に給水するものです。



**18年の歳月を経て
「法内線」が完成**

昭和四十年に県単独事業として発注された県道神岡坂部横渡線(通称・法内線)改良舗装工事は、今夏、十八年の歳月を経て東由利地域分全線が完成しました。

車道おしの交差が容易でないほど道幅が狭く、穴ぼこだらけで悪評をかってきた同線はいま、りっぱな舗

装二車線道路に生まれ変わり、沿線住民から辺地といったイメージを払しょくし、かけがえのない生活道路、産業道路として地域発展に大きく貢献するものと期待されています。

- 8日 町消防訓練大会(総合優勝・第四分団)
- 18日 由利牛が銘柄牛に認定(東京・立川食肉市場)
- 25日 郡市消防訓練大会(総合の部で優勝)
- 25日 昭和58年県彫刻シンポジウム(於:大台分校)
- 25日 第49回全県少年野球大会(東由利中出場)
- 10日 国道一〇七号線整備促進期成同盟会総会(於・有鄰館)
- 15日 町成人式(該当者116人)
- 23日 町追悼式(於・有鄰館)
- 28日 町民運動会
- 9月4日 県畜産共進会(於・本荘市、島の畑山克司さんのジャージー牛が東北農政局長賞、津沢の佐藤好男さんの肉牛が優等賞)
- 4日 第10回東北総合体育大会(大琴の大庭邦子さんが走り高跳びで優勝、1m74cm)
- 8日 第9回定例議会(57年度各会計決算承認)
- 9日 第1回町老人クラブ大会(於・有鄰館)
- 20日 町の社会福祉を高めるつどい(於・有鄰館)
- 10月1日 第九回郡市小学校卓球大会(老方小六年・柿崎梢さん個人優勝)
- 16日 第10回全町マラソン大会
- 16日 第17回郡市中学校駅伝競争大会(東由利中初優勝)
- 22日 第10回郡市小学校バスケットボール大会(八塩小男子初優勝)
- 29日 蔵小学校校慶記念事業実施
- ※ 町長面会日設定(毎月20日)
- 11月3日 町功労者表彰式(被表彰者、阿部重三郎氏・佐藤敏英氏・大庭喜右衛門氏)・前助役小松民三郎氏に自治功労章贈呈
- 5日 町生活文化祭(於・有鄰館、朋楽荘、公民館)
- 7日 町発明工夫展10周年記念式(於・有鄰館)
- 10日 町政座談会(法内分館主催、於・克雷センター)
- 10日 文化講演会(於・有鄰館、講師・堀江謙一氏)
- 19日 知事市町村訪問来町
- ※ 石高地区団体営農道整備事業に着手(L115 30m)
- 12月7日 本荘市由利郡内の市外局番が統一、市内局番は二ケタに
- 18日 衆議院議員総選挙

ユ一モラスな熱演に大爆笑

東由利中 三年に一度の大文化祭



名演技を披露した演劇発表



女子生徒のみごとな生花に男子生徒の目もうばわれる

「躍進・躍動・飛躍」をテーマに十月三十日、東由利中学校で三年に一度の大文化祭が行われ、盛況をきわめました。

同校では毎年一回、自分たちの学習成果を展示発表し合うミニ文化祭を開いています。三年に一回はこの展示内容を拡大し、さらに、学芸発表や食堂・喫茶コーナーなども

加えてよりワイドな企画・催しを行い、多くの人たちにみてもらおうというものです。廊下には、学級新聞や写真が貼られ、各教室には、生花や書画、被服手芸品などが展示されたほか、ガラクタ市場やゲームコーナー、読書コーナー、ミュージックハウスなども設けられ、人気を呼んでいました。

体育館では、中学校祭らしく、英語暗しようや弁論発表、合唱、吹奏楽演奏、演劇発表などが行われ大盛況。特に「むじな沢のはなし」と題する演劇では、全校生徒の中から選ばれた俳優たちが、持ち味をフルに生かして大熱演。ユ一モアあふれるしぐさやセリフ、そしてとちりに、会場は大爆笑。名演技に盛大な拍手が送られていました。

体力向上と気力の充実

下郷分校紅葉の下で競歩大会

本荘高校下郷分校で十月二十七日、男子生徒四十四人、女子生徒四十二人が参加して全校競歩大会が行われました。これは、基礎体力の向上と気力の充実を目的に、今年初めて企画したものです。コースは、男子が分校から横渡し黒沢し大台し大琴し坪倉し館合新田し分校の二一・八キ。女子は、横渡をスター

ト地点に同コースの十八キ。走っても歩いてても良い、完走(歩)を目標とする大会だけに、汗をしたたらせながら一路ゴールを目指す生徒の一方で、紅葉真っ盛りの周囲の風景を楽しみながら談笑しピクニック気分?の女子グループ、終始ゆつくりリズムのマイペース人などいろいろ。結果、一番速い生徒が二時間

二分四十秒、遅い人は四時間三十一分と極端な差が出たレースとなりましたが、全員が元気に完走(歩)。



保健婦の
健康家族メモ

冬枯れの枝に冷たい風が吹きぬける季節になると、飲酒の機会も多くなりがちです。

適量のアルコールは、個人や社会生活にくつろぎの場をつくり、人間関係を円滑にするすばらしい効用を持っています。

さてあなたは、適量飲酒に心がけておりますか?

☆ お酒とうまくつきあうための10カ条

- (1)、楽しく飲もう：ヤケ酒は飲み過ぎのもと、お酒の味と雰囲気を楽しみながら。
- (2)、自分のペースでゆっくり：飲む速度を早めると血液中のアルコール濃度が高くなり、早く酔い、その分だけからだの障害が生じやすい。

お酒と上手につき合おう
味と雰囲気を楽しみながら

- (3)、食べながら飲もう：空腹状態でたくさん飲むのは、胃腸を強く刺激します。蛋白質や脂質に富んだ食物を食べると、胃腸障害を予防し、血中のアルコール濃度も低く保てます。
- (4)、自分の適量にとどめよう：できるだけビール1〜2本、日本酒1〜2合、ウイスキーダブル1〜2杯とし、それぞれ3本、3合、3杯を限度に。
- (5)、毎日続けて飲まない：週に2日は休肝日を：日本酒1合、ビール大瓶1本、ウイスキーダブルで1杯は、ほぼ同じ量のアルコールを含んでいます。この分だけ肝臓で処理されるには、約3時間を要します。
- (6)、他人に酒の無理強いをしない。
- (7)、くすり(睡眠薬、安定剤、血圧降下剤、糖尿病薬など)と一緒に飲まない。
- (8)、強いアルコール飲料は薄めて飲もう。
- (9)、肝臓などの定期検査をうけよう：大量の飲酒を長い間続けると肝臓をいためつけ、脂肪肝、肝炎、肝硬変と進むこともあります。
- (10)、遅くても夜12時で止めよう
お酒を楽しみながら、人間永遠の課題である「丈夫で長持ち」に向かい、うまくお酒とつきあっていきたいものです。

さようなら思い出の学び舎



東北郵政局長賞に輝いた大庭さん

大庭さんが東北郵政局長賞 高橋君は県知事賞

第二十二回簡易保険郵便年金作文コンクール

第二十二回簡易保険郵便年金作文コンクールで、東田利中学校二年の大庭智恵さんがみごと東北郵政局長賞を、八塩小五年の高橋慶始君が県知

事賞を受賞しました。このコンクールは、小学生を対象に実施しているもので、二人の作品は、今回全国から寄せられた十萬四千六百三十四点(うち小学生五萬九千八百五十四点)の中から、厳正な審査を経て入賞が決まったものです。

やがて消えゆく思い出深い学び舎に心寄せ、校歌を合唱する子供たち



児童、父兄、地域住民が一緒になって盛大にもちつき大会



蔵小

住民総出で多彩な廃校記念行事

さようなら蔵小——学校統合により本年度いっぱい百九年の校史にピリオドを打つ蔵小学校で、十月二十九・三十日の両日、学芸・演芸発表やもちつき大会、小運動会、児童・一般作品展など、多彩な廃校記念行事が繰り広げられました。

明治七年に蔵村学校として創立された蔵小は、昭和四十九年に法内小と統合、これまでに合わせて三千四百二十二人を世に送り出していますが、老朽危険校舎の解消を図るべ

く全町三校案に基づいて来年度から老方小と統合し、新たなスタートをきることになつたものです。来年三月には廃校式が行われることになっていますが、出稼ぎ期間中では出席できない人も多いため、「地域住民が総参加できる時期に記念行事を」と七月に廃校記念事業実行委員会を結成し、周到な準備のうえで今回の開催をみたものです。二日間にわたる催しはいずれも大盛況。展示会場には、児童の発明工夫品や習字・図画、一般住民の農産加工品、ワラ工品、手芸品などのほか、明治七年以降の学校行事、地域行事等にかかわる昔なつかしい写真がパネル展示され、参観者の足をしばし止めさせていました。記念行事のハイライトともいべき二日目の学芸・演芸発表にはおおぜいの住民が詰めかけ、会場の同小体育館に入り切れないほど。同小児童のゆうぎや劇、踊りのほか、自治会員や若妻会、老人クラブ、子供会、地区内グループなどの披露する民謡や踊りに、盛大な拍手を送っていました。児童発表の最後に、子供たちが校歌を声高らかに合唱すると、やがて消えゆく思い出深い学び舎に心ひかれ、涙を浮かべて感懐にふける人もいました。



老方小6年 柿崎 梢さん

小松音楽兄弟顕彰音楽祭に参加して

私たちは、十一月十六日に有鄰館で開かれた、小松音楽兄弟顕彰音楽会に参加しました。自分たちの出番を待つ間は「ドキドキドキ」と心臓の音が聞こえるくらいでした。「次は、老方小学校」と呼ばれ、ますます緊張が高まりました。楽器を用意して、舞台上に立ちました。先生が礼をして台の上に立ち、指揮の棒を上げました。私の手はふるえてきました。練習のときは、たまに先生の指揮を見ないときもあったけど、このときは、一度も目をはなさずに指揮を見るようにしました。するとだんだん楽になってきて、お客さんもないよな気になってきました。音をまちがえてしまったところもあるけれど、顔を

出番前、心臓音が「ドッキドキ」

みんな上手、だけど私には「老小一番」

かめたりするとお客さんからまちがったことを気付かれるかと思つて、ふつうの顔で演奏しました。一曲めの合奏「コンドルは飛んで行く」が終わって一安心。次は合唱奏の「小川の四季」です。「コンドル——」のときは前の列だったけど、今度は後の列に立っているので、これも一安心です。「小川の四季」は、楽な気持ちでやったかったところもきちんとできました。ほかの人たちもまちがいが少なかつたようです。やっと私たちの演奏が終わりました。短い間だったけれども一生懸命に練習した成果を出すことができました。みんな「あー、良かったなあ」という顔をしていました。先生もにこにこしていました。この音楽会では、ほかの学校の演奏を聞いたり、参加者全員で小松先生の曲を合唱したりもしました。どの学校も上手だったし、みんなで歌うのも楽しかったけど、私にはやっぱり老方小学校の演奏が一番良かったような気がしました。

豆記者通信



心を込め合唱奏

小松音楽兄弟の顕彰音楽会

第二回小松音楽兄弟顕彰音楽会が十一月十六日、有鄰館で開かれ、子供たちの明るい歌声が会場いっぱいに響き渡りました。

子供たちの明るい歌声が、会場いっぱいに響き渡った小松音楽兄弟顕彰音楽会

これは、本町館合出身で広くその名を知られている音楽家、故小松耕輔、三樹三、平五郎、清兄弟を顕彰するとともに、音楽を通して心豊かな創造性を——と、町教育研究会が昨年に

続いて開催したものです。

この日、会場には、町内各

本町勢が四種目制す 東中が団体二連覇

市郡珠算競技大会

本荘市由利地区商工会連絡協議会の主催する第三十回市郡珠算競技記念大会が十月二十九日、本荘市の鶴舞小学校体育館で行われ、本町の東由利中学校が団体競技で昨年に続いて一位となったのはじめ、個人競技で鈴木貴子さん

小学校五、六年生児童、中学校全生徒が集い、「あの子もねてる」「海の朝」「風」など、耕輔の作品を中心に二十一曲を、心を込めて合唱奏しました。

個人競技1位の佐野直美さん(老小6年)



二年連続団体1位となった東中生

(東中一年)、佐野直美さん(老小六年)、読上暗算競技で小松英子さん(東中一年)がそれぞれ一位となったほか、四人が五位以内入賞を果たし、今大会受賞トロフィーの三分の一を本町勢が占める大活躍をしました。

二位以下の成績は次のとおりです。(敬称略)

- 【個人競技】・二位 小松育子(東中二年)・五位 佐藤みほ子(同二年)・同 畠山俊彦(老小六年)【読上算】
- ・四位 佐々木珠枝(東中一年)

東由利の地名

= 42 =

東由利町にかかわる記録は、奈良・平安はもちろん中世においてほとんど見当らない。したがっていつの頃から老方と呼ばれたか明確でないが、その後の古文書等に老方の名の出てくるのを、古い方からあげてみる。

老方

①

泉秀寺が老方に建立されたのは寛永八年(一六三二)のようである。また「玉米古館並に玉米殿油来聞伝之事」には、滝沢刑部殿御代迄は館前に御廻り衆の御宿三間御座候、其の後寛永に六郷兵庫様御代に老方

に分かれたとある。同じく解説集の「老方町割の事并新町堤築造事」には、元和三年(一六一七)に老方町割を、元和九年には老方と新町の間に堤を築いたことが載っている。村に新町を御立被成、寛永十年(一六三三)に始めて御廻りの衆御宿仕候とある。延享三年(一七四三)御巡見様御通覚書には、老方村町屋敷五四軒、人数三二五人(新町を含んで男一九〇、女一三五)新町の家数一九軒とある。そして宝暦八年(一七五八)の御領分覚書によれば、幕府の巡見使や亀田と本荘の藩主の参勤交代等の通路で、老方に一泊する宿御本陣小松助太郎とあり、宝暦三年から毎月の一・七定期市が立ったともある。(文・畑山昭一)

「白鳥の親子の像」贈る

大琴小校長の渡辺先生



メルヘンの世界へ誘う「白鳥の親子の像」

今春河辺中学校から赴任して来られた大琴小校長の渡辺昭次先生は、このほど、赴任

を記念し、セメントを素材に自ら制作した「白鳥の親子の像」を同校に贈りました。

この白鳥は「愛」をテーマにしたもので、羽ばたきを見せる父白鳥は希望を示唆し、母白鳥は空を見上げ将来を語りかけ、そのそばで安心しきった二羽の子白鳥が無心に遊んでいます。十月十七日にこの白鳥の除幕式をした子供たちは「ほんとうの白鳥が親子で湖を泳いでいるよう」「家族仲良く、とつてもしあわせそう」「白鳥さんこんにちは、わたしたちとも仲良くしてね」と……。緑の芝に映えるまっ白な白鳥は、ひとりで子供たちをメルヘンの世界へ運んでいくように感じます。

12月7日、あかつき号、が来町します



採血場所・時間

- ・10:20~11:10 大琴診療所前
- ・12:10~12:50 大蔵館前
- ・13:00~13:30 農協玉米支所前
- ・13:40~14:40 役場前
- ・15:00~16:00 本高下郷分校前

善意の献血にご協力をお願いします。

12月(師走)のこよみ

曜日	行事
1 木	
2 金	
3 土	
④ 日	
5 月	
6 火	民生委員協議会
7 水	乳児検診、献血(町内5カ所)
8 木	
9 金	ジフテリア予防接種
10 土	
⑪ 日	
12 月	
13 火	育児学級
14 水	3歳児健診
15 木	
16 金	1歳6カ月児健診
17 土	
⑱ 日	衆議院議員総選挙投票日
19 月	
20 火	町長面会日、国保税(3期)督促状発送
21 水	定例議会(23日)、麻しん予防接種
22 木	
23 金	
24 土	大平スキー場開き、農業委員会、小・中学校修業式
⑳ 日	
26 月	
27 火	水田利用再編第3期対策自治会代表者会議
28 水	役場大掃除、仕事納
29 木	
30 金	
31 土	
摘要	26日 固定資産税(4期)納期限

おしらせ

町の概要 10月

☆人口()内は前月との比較
計 6,223人(+4)
男 3,066人(-1)
女 3,157人(+5)
☆世帯数 1,428戸(-2)

()内は1月からの累計

■出生 8人(66)
■死亡 3人(43)
■転入 12人(119)
■転出 13人(216)

○面積 148.51km²
○東西 15.3 km
○南北 14.6 km

ダイヤル注意

市外局番「〇一八四」
市内局番「六九」に
12月7日から変わります

十二月七日(水)午後二時から、本荘市由利郡内の市外局番がすべて「〇一八四」に統一され、市内局番も二ケタに変わります。

したがって、東由利局の場合、市外局番が「〇一八四」、市内局番が「六九」となります。

すので、次の要領で通話してください。

町内通話の場合

「六九」に続けて現在の加入者番号をダイヤルする。

本荘市、由利郡内へかける場合

市外局番に関係なく、その地域ごとの市内局番二ケタと現在の加入者番号だけダイヤルする。

本荘市由利郡内から東由利へかける場合

「六九」に続けて現在の加入者番号をダイヤルする。

入者番号をダイヤルする。
◎秋田、東京など市外から東由利へかける場合
これまでどおりのダイヤル方法でつながる。

秋大医学部白菊会から

白菊会は「医学の進歩・発展への貢献を目的とし、無条件・無報酬で自らの遺体を解剖実習のために提供しよう」とする人々の会です。

無条件・無報酬で行われる

「献体」は、献体者本人には何んの見返りもありませんが、その心は子孫への貴重な遺産として受け継がれてゆくはずで、天寿を全うした後に「死んでからでも自分の体が役に立てば」という善意に一人でも多くの方が共鳴され、参加

今年も町社福協へ三万円 東由利中

町の社会福祉に役立ててと東由利中学校生徒会(畠山弘喜会長、二百十七

されることを願っています。

詳しいことは「秋田大学医学部白菊会・秋田市本道一丁目一ノ一・電話〇一八八―三三―一六六(内線三三―一〇三三―一一)へ。

雇用保険の不正受給はやめて!

雇用保険の失業給付制度の目的は、失業した労働者の生活の安定を図ると共に、求職活動を容易にする等、その就職を促進することにあります。

人)は、このほど、町社会福祉協議会に三万円を寄せられました。
これは、生徒会事業として夏休み期間中に実施した「空きびん回収」の収益金の一部です。

ところが、本制度の趣旨に反し、不正行為により保険の支給を受ける者が年々増加し、とくに、本荘安定所管内では悪質な不正受給者の増加が目立っております。

不正行為の主なもの、保険の支給を受けている者が、就職したにもかかわらずその事実を届け出ない例が大半を占めております。

御承知のとおりこの財源は、労働者、使用者が納める保険料と国民の税金でまかなわれています。したがって、不正行為は、国民一般に対する背信行為といわねばなりません。不正行為を一掃し、本制度の適正な運営が図られますよう、地域住民皆様のご協力を願ひ申し上げます。

本荘公共職業安定所

社福だより

上通の畠山昭一さんから、亡父昭之助氏の香典返しとして金一封が届けられました。蔵の阿部幹夫さんから、亡父吉五郎氏の香典返しとして金一封が届けられました。故人のご冥福を心から祈

り申し上げます。
同生徒会からは、六年前から毎年こうした収益金の一部が寄付されており、町社会福祉協議会では、より充実した福祉の実現に努め、子供たちの善意に答えたいとしています。

慶弔だより

10月21日～11月20日受付 (敬称略)

〇うい声

畠山貴子 上通 満春 長女
小野祐一 下小屋 和男 長男
木嶋弘幸 袖山 博 長男
大庭兵太 舟木 清一 四男
石綿太 大台 清耕 二男

〇結婚

伊東 佐藤志 大琴
佐々木 明子 本荘市
佐藤 茂一 松柴
柳原 由紀子 平鹿町
遠藤 久 宿
佐々木 寿子 大内町
大庭 正一 舟木
平元 寿美子 本荘市

・お悔み申し上げます

畠山昭之助 上通 56歳
阿部 良吉 杉森 72歳
阿部千代蔵 十二の前 77歳
阿部吉五郎 蔵 73歳

冬道は百面相 スピードはひかえめに

